

Y04b 『宇宙スペクトル博物館：X線編 - みえない星空への招待 - 』

栗野諭美（岡山天文博物館）、北本俊二（阪大理）、衣笠健三（ぐんま天文台）、田島由起子（サイエンスデザイナー）、福江 純（大教大）

今年の春季年会において紹介したマルチメディアソフト『宇宙スペクトル博物館：X線編』が完成したので、ここで報告する。

X線天文学は今や天文学における一大分野であるが、この目に見えない電磁波は実生活においては馴染みの薄いものである。高校教育課程においてもほとんど扱われることのないX線というものを、ここでは身近な例を取り入れ、まずは“X線とは何なのか？”という視点から導入をはかる。一般的なX線の性質を学べるようにするとともに、X線スペクトルの観測によって新たに開かれた星空の世界を、可視光との違いを比較しながら初心者にも解りやすく紹介していく。

全体の構成は、導入、実験室、観測装置、太陽系、星、銀河など、全10セクションから成り立っており、どこからでも自由に学べるようになっている。各セクションの初めのページは、初心者にも馴染みやすいように、カラー画像を中心にかんたんな解説を加え、おおまかな内容を把握してもらえるような構成になっている。さらに高度な内容については、プラスのページとして、さらに奥の階層へと進む形式になっているため、学習者のレベルに合わせて、活用できるよう配慮されている。

本ソフトはHTMLで記述され、ブラウザを利用して初心者の一人学習が可能であるとともに、専門家の一般講演などでのプレゼンテーション資料としても十分活用できるものを目指している。

なお、X線編については、裳華房より市販される予定であるが、『宇宙スペクトル博物館』シリーズとして、電波編、可視光編（改訂版）も計画中である。幅広いご意見をいただき、参考にさせていただきたいと考えている。